

地域に生きる、歴史を生きる

高大生の歴史実践と協働型価値創造

石田智子（法文学部人文学科多元地域文化コース准教授）全体統括・調査研究（考古学）
兼城系絵（法文学部人文学科多元地域文化コース准教授）調査研究（文化人類学）
中嶋晋平（法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター特任助教）調査研究（日本史・社会学）
伴野文亮（法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター特任准教授）調査研究（日本近現代史）
村野正景（静岡大学情報学部情報社会学科准教授）地域資料の記録・保存・活用に関する助言（博物館学）
松井敏也（筑波大学芸術系教授）文化遺産の記録作成および保存に関する助言（保存科学）

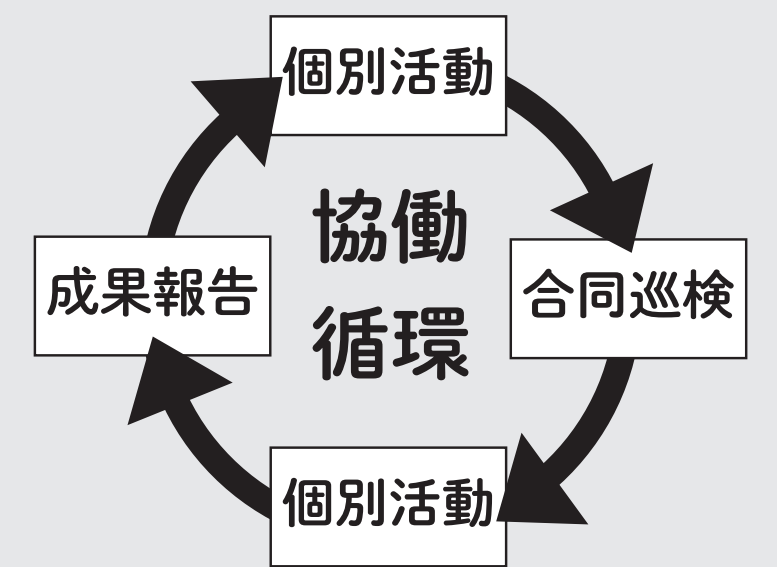


目的

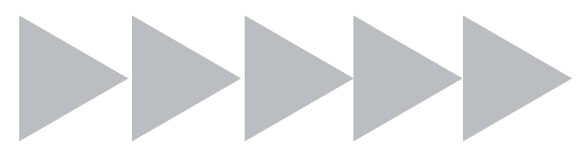
少子高齢化や過疎化の進行にともない地域の文化・歴史・伝統の担い手が不足し消滅が危惧される現在、地域社会と地域資源（文化資源・自然資源）の未来のありかたについて考える機会が必要である。本プロジェクトは、地域の中心にあり続けた学校に焦点をあて、地域資源の発見・記録・保存・活用に取り組み、新たな価値を創出する高校生や大学生の活動を支援することで、地域資源への幅広い興味関心をもつ地域人材や専門的知識・技能を備えた専門人材の育成に貢献することが目的である。活動成果を一般社会と共有することで地域へ知を還元し、地域資源にかかわる住民の主体的活動を促進することも目指す。
keywords：高大連携、地域資源、歴史実践、まちづくり、地域活性化、長期思考

内容

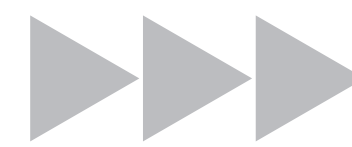
- ①鹿児島県立指宿高等学校の探究活動支援
- ②鹿児島県立古仁屋高等学校の瀬戸内まちづくり研究所の活動との連携
- ③鹿児島大学による地域資源の記録・保存・活用にかかわる実践活動
- ④奄美大島・加計呂麻島合同巡検の実施
- ⑤成果報告会の開催（テーマ：戦争遺跡の調査・研究・活用）



合同巡検



各学校で活動



成果報告会

2024年9月21～23日 @ 奄美大島・加計呂麻島
参加者 21名

①瀬戸内町の近代遺跡の発表会@古仁屋高等学校



鼎丈太郎さん（瀬戸内町教育委員会）
国史跡奄美大島要塞跡の概要説明

古仁屋高校生による奄美大島要塞司令部跡の説明
足元の歴史を自分の言葉で説明する姿に刺激をうける

②戦争遺跡の踏査（西古見→古仁屋）



第2観測所跡（西古見）
早朝から戦争遺跡を調査する大学生

第2観測所跡の内部の観察
松井敏也教授から説明をうける高校生

水上飛行機滑走路跡（須手）
熱心に調査する大学生の姿に高校生は驚く

○参加者のコメント

すごく楽しかったです。行く前は不安な気持ちでいっぱいでしたが、色々なことを学ぶことができ、奄美大島の綺麗な景色も見ることができ、とても貴重な体験でした。奄美大島は私が想像していたよりも自然豊かで歴史のあるところでした。／普段みることのない遺跡の実物を数多くみることができ、とてもよい経験になった。高校生たちが精力的に活動している事実を知り、負けていけないと思った。／高校生たちは大学生と寝食をともにすることを通して、身をもって大学のフィールドワークについて知ることができました。奄美パーク等でシマの暮らしについて学び、同じ鹿児島県内であっても、自然や文化に多様性がみられることに深く感銘を受けました。

④奄美大島の展示施設観覧



奄美市立歴史民俗資料館
高校生に考古資料を解説する大学生

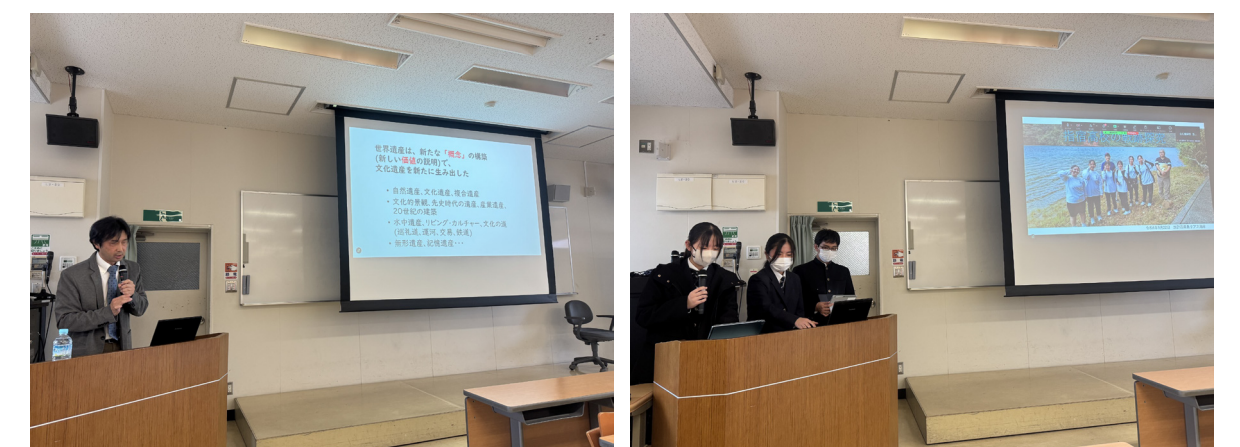
③加計呂麻島合同巡検



弾薬庫跡（安脚場）
多数の戦争遺跡を現地で見学する高大生



意見交換会（加計呂麻島展示・体験交流館）
戦争遺跡や地域資源の活用の話だけでなく、
学校生活についても楽しく話していた



基調講演（村野正景准教授）

指宿高等学校



古仁屋高等学校（リモート参加）

鹿児島大学法文学部考古学ゼミ

○基調講演

価値体系を踏まえた文化遺産や価値創造の理論的枠組の共有

○活動報告

戦争遺跡の活用に焦点をあてた高大生の活動成果の報告

合同巡検をうけて、各地域の戦跡や戦争記憶の調査を実施

○ディスカッション

- ・地域活性化のターゲットが誰なのか（内部、外部）
- ・戦争遺跡にともなう「負の記憶」も含めた活用なのか
- ・なぜ地域で戦争にかかわる記憶が薄れていくのか

- ・戦争遺跡だけでなく幅広く多角的な視点でみていくこと
- ・地域の人とのかわりを踏まえた近未来を考えること
- ・事実の把握と自分の言葉で説明することの大切さ
- ・活動を継続するためのプラットフォームやハブの必要性

成果

- ①過去の高大連携事業や自治体の文化財専門職員とのネットワークを活かして、円滑に事業を実施した。
- ②高大生が現地をともに訪れ、文化遺産だけでなく自然環境や地域の人びととの交流も合わせて総合的に体験できるフィールドワークは、高大連携事業において有効な方法であることを認識した。
- ③大学生は大学公認サークル A.R.C（Archaeological Research Community）を結成し、主体的活動を開始した。
- ④高大生がより深く相互作用するためには体験を取り入れた活動が必要である。今後の課題。

本プロジェクトは鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターの令和6年度地域マネジメント教育研究プロジェクトの助成で実施しました。合同巡検や成果報告会の実施、資料や情報提供等で多くの諸氏・諸機関にご協力いただきました。特に、事業にご参加いただいた鹿児島県立指宿高等学校および古仁屋高等学校の皆様、鹿児島大学法文学部人文学科の考古学ゼミの皆様、鼎丈太郎さん（瀬戸内町教育委員会）に厚く御礼申し上げます。
[お問い合わせ先] 石田智子（考古学） 連絡先（E-mail）：ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp